

## 「鎌倉市医療福祉連携会議」に出席しました！！

今年度鎌倉ケアマネ連絡会では、地域包括ケアシステム構築に向けて行政・地域包括支援センターとの連携・ネットワーク強化を図っています。

その取組の一つとして、平成28年6月1日に、鎌倉市が主催している「鎌倉市医療福祉連携会議」に連絡会として出席してきました。

この会議は、より良い退院支援をめざして、これから多職種がどのように連携をしていけばいいのか、鎌倉市12病院の MSW、鎌倉市役所（高齢者いきいき課、市民健康課、障害福祉課、生活福祉課、保険年金課）、鎌倉保健福祉事務所、鎌倉市地域包括支援センター（7箇所）、居宅の主任ケアマネジャー、障害者相談支援事業所の方が集まり、平成25年から積み重ねている会議です。多職種が一つのグループになり、事例を通して、お互いの役割を理解するとても貴重な場になっているようです。



写真：当連絡会佐藤代表より、「鎌倉市共通入退院時情報提供書」の作成経緯について説明がありました。佐藤代表は当時包括の職員としてこの書類の作成に携わったメンバーの一人です。

## 「鎌倉市共通入退院時情報提供書」の活用について

今年度第1回目の医療福祉連携会議のテーマは「鎌倉市共通入退院時情報提供書」を活用した医療と福祉の連携についてという内容で、多職種間で活発な意見交換が行われました。

事前に、鎌倉市と地域包括支援センターがケアマネジャーと病院向けに行ったアンケート結果によると、入退院時情報提供書のことを88%のケアマネジャーが知っていると回答していました。そのうち実際に利用に至ったケアマネジャーは65%、MSW は32%でした。書式自体は知っているけれど、実際に活用するまでには至っていないという現状がわかりました。グループワークで具体的に出てきた意見としては・・・

（医療機関より）

○回復期や精神科の病院は利用していない。精神科は在宅復帰が低いので必要性を感じない。

○書式について、内容は十分。情報の伝達方法としては不十分だが、退院時活用できる。

○サービスの利用状況が載っているのでありがたい、家族は理解していないこともあるので。

（居宅主任ケアマネジャーより）

○マニュアルを理解していなくて十分な活用はできていなかった。

○連携のためのツールなので常に持ち歩いています。

○入院期間が短いときは、情報提供が難しい。

《まとめ》最終的には、連携のツールとしては有効ではないか、今後はケアマネジャーに使用マニュアルを読み込んでいただき、使用方法を統一させること、医療機関側への提出先窓口をはっきりさせることが課題としてあがり、また急性期から回復期等への転院の場合、書類の扱いをどうするのか、ということも今後の検討課題としてあがり、最後に、鎌倉保健福祉事務所保健福祉課課長 重松氏より、この会議は他の制度との連携の組み合わせができる。多職種の話し合いの中でわかることが多く、情報の広がりを多くする有効な場である、と総評がありました。

